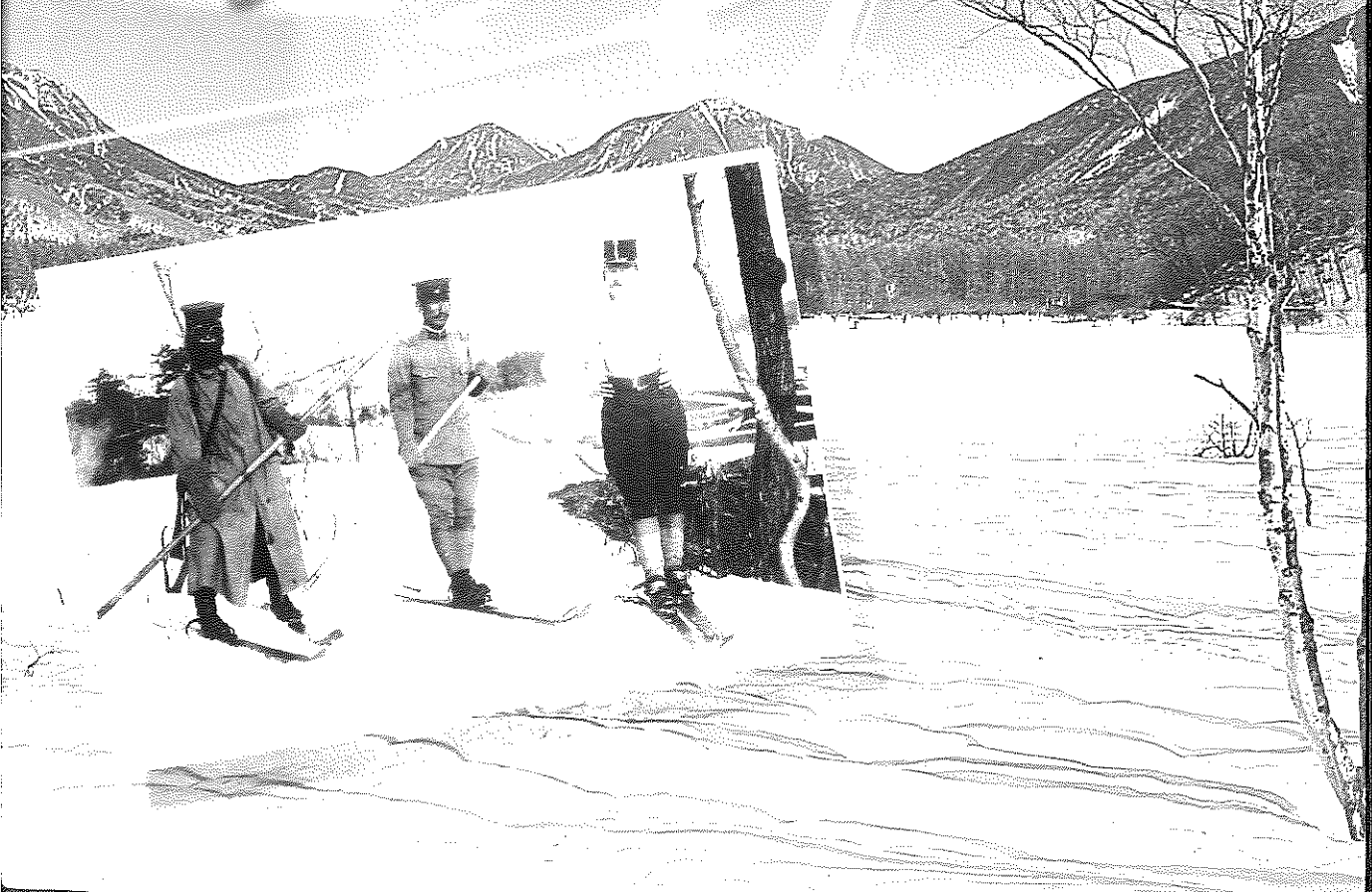


創立80周年記念誌

エプソールIV



創立80周年記念誌

エプソールIV

Ski Association of TOCHIGI 栃木県スキー連盟

栃木県スキー連盟創立80周年記念式典スケッチ

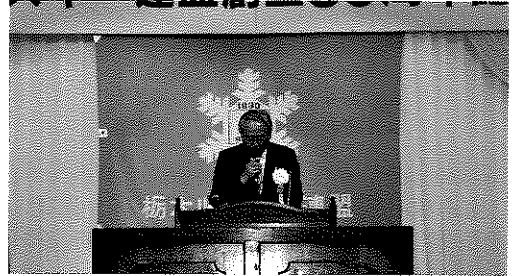
平成22年10月9日(土)午後3時
宇都宮市内 結婚式場アピア

2. 主催者あいさつ

1. 開式のことば



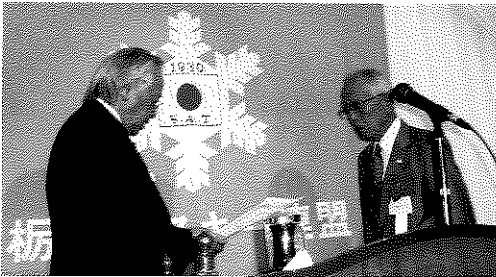
手塚義朗副会長



綱川千夫会長

3. 表彰

功労者表彰



宇都宮スキー協会 佐藤六夫氏

故人表彰



奈良クニエ様

競技者表彰



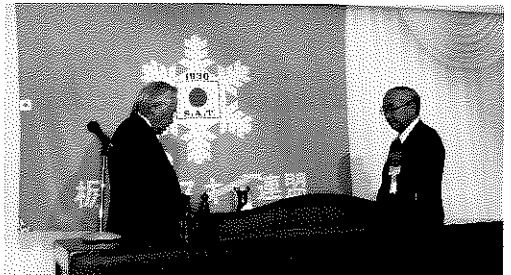
ハンターマウンテンズスキークラブ 足助未央氏

競技者表彰



宇都宮スキー協会 鶴見宜典氏

感謝状贈呈



栃木スバル(株)販売促進部長 田野井俊夫氏

4. 来賓祝辞



全日本スキー連盟会長代行 岡山紘一郎氏



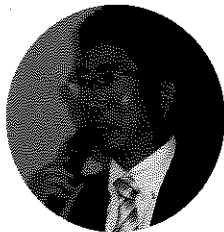
埼玉県スキー連盟会長 坂本祐之輔氏

6. 受賞者代表謝辞



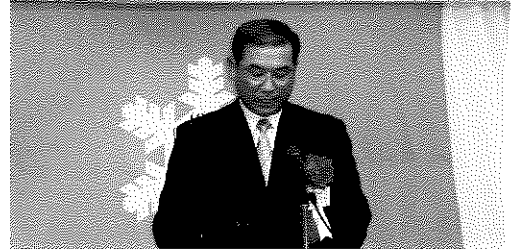
宇都宮スキー協会 佐藤六夫氏

進行



剣持孝信氏

連盟創立100周年



栃木県体育協会常務理事 森島幸男氏

5. 来賓紹介



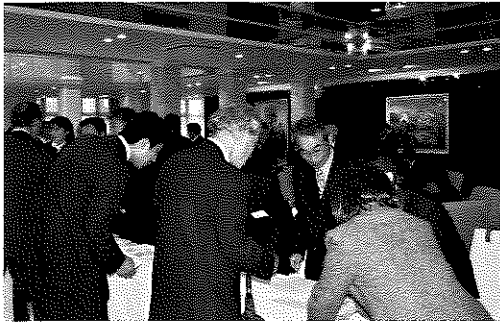
来賓の皆様

7. 閉式のことば

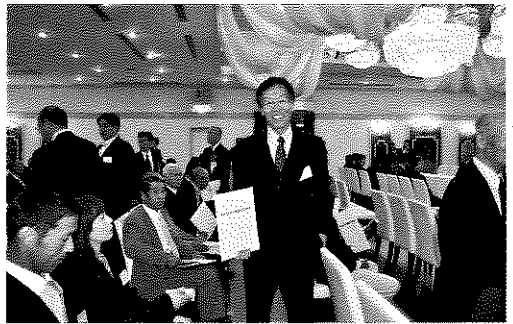
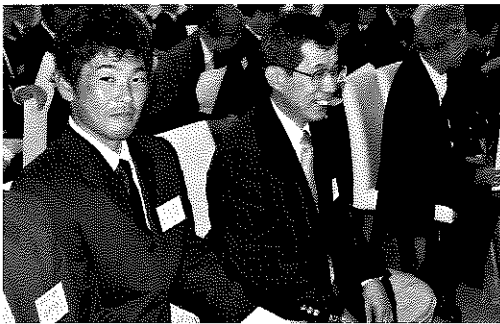


後藤昌弘副会長

受付風景



式典会場風景



80周年機に飛躍を

県スキー連盟 創立80周年記念式典

県スキー連盟 創立80周年記念式典 県スキー連盟 創立80周年記念式典 県スキー連盟 創立80周年記念式典



記念式典であいさつする関平天... 飛躍スキー連盟会長、林原男... 約250人が出席し... 県勢のご10年間の... 国体成績は16位以内が... 男子の入、女子入、不... 振が続いているだけに... 橋川夫妻は、全日本... ヘルにはまだまだ不足で... 選手強化に力を入れる... ければならない。この80... 年を契機に90年に向か... コスチングアップを... はかりたい」とあいさつ... した。その後、連盟幹部に... 祝した。宇都宮スキー協... の佐藤大さんらの参... 臨した。

目次

序章 創立80周年を迎えて			
創立80周年を迎えて	栃木県スキー連盟会長	綱川 千夫	1
「創立80周年記念誌」発刊によせて	栃木県体育協会 会長	福田 富一	2
祝辞	全日本スキー連盟会長代行	岡山紘一郎	3
県連と共に半世紀	栃木県スキー連盟名誉会長	荒井 文男	4
県連の現況	栃木県スキー連盟理事長	石塚 光男	5
第1章 創立80周年記念式典祝賀会			
第1節 式典祝賀会			
式典次第・来賓名簿			8
式典来賓祝辞			
栃木県スキー連盟創立80周年に寄せて			
	埼玉県スキー連盟会長	坂本祐之輔	10
第2節 受賞者の記録			
80周年記念式典受賞者の記録	総務本部長	江連 隆夫	11
受賞者の声			
栃木県スキー連盟80周年に寄せて	宇都宮スキー協会	小野 義治	14
苦楽の10年	佐野スキー協会	長島 隆	14
栃木県スキーマスターズの歩み			
	栃木県スキーマスターズ会長	鶴見 宜典	15
スキーとの出会い	ハンターマウンテンスキークラブ	大塚 昌代	16
創立80周年記念祝賀会スケッチ			17
第2章 県連・所属団体のあゆみ			
第1節 県連のあゆみ			
栃木県スキー連盟80年のあゆみ 創立80周年記念誌部会 アドバイザー		根本 圭造	22
栃木県スキー連盟年表（平成13年～平成22年） 総務副本部長		千本木武則	27
第2節 所属団体のあゆみ			
「スキー選手の育成とスキー愛好者の底辺拡大を！」を合言葉に			
	日光スキークラブ会長	後藤 昌弘	29
那須スキークラブの最近の10年	那須スキークラブ会長	長瀬 恒男	29
創立80周年を迎えて 宇都宮スキー協会の現況			
	宇都宮スキー協会名誉会長	長谷川好勇	30

鶏頂山スキークラブについて	鶏頂山スキークラブ会長	山口 孝二	31
栃木スキークラブの10年	栃木スキークラブ会長	柴 英雄	32
足利スキー協会の10年	足利スキー協会 会長	笠原 弘行	32
組織固まる	東武スキークラブ	三関 利秋	33
鹿沼スキー協会の現状と課題	鹿沼スキー協会 会長	大津 守	34
小山スキー協会この10年の出来事から	小山市スキー協会 会長	斉藤 輝吉	35
佐野スキー協会の10年	佐野スキー協会理事長	落合 久雄	36
今市スキー協会の10年	今市スキー協会事務局	吉原 浩之	36
矢板スキー協会の10年	矢板スキー協会 会長	小川 修市	37
氏家スキークラブの10年	氏家スキークラブ	船生 剛正	37
芳賀スキー協会最近の10年	芳賀スキー協会	中野 孝弘	38
おおひらスキー協会	おおひらスキー協会 会長	井口 保	39
黒磯スキー協会の現状	黒磯スキー協会 会長	高根沢春彦	39
大田原スキークラブのあゆみ	大田原スキークラブ会長	五十嵐 透	40
ハンターマウンテンスキークラブのあゆみ	ハンターマウンテンスキークラブ	大塚 昌代	41
上河内スキークラブ 次の10年	上河内スキークラブ	四谷 建二	41
スキーバフメンバーズ 創立25年	スキーバフメンバーズ事務局	坂本 忠仁	42
県連加盟を果たした那須塩原スノースポーツクラブ	那須塩原スノースポーツクラブ会長	佐藤 史彦	43
はじめまして	HOKUTO S.C会長	磯 正嗣	43
高体連スキー専門部10年の歩み	高体連スキー専門部	上野 忍	44
新規加盟の喜びと抱負	足利スノーボードクラブ会長	萩原 秀侑	45
所属団体10年の記録	総務本部理事	小原澤善勝	46

第3章 専門部の歩み

第1節 総務本部の10年

総務本部運営の推移	総務本部長	江連 隆夫	48
会員登録の推移	総務本部理事	小野崎俊行	49
予算の推移 10年の記録	総務本部理事	小原澤善勝	50
県連事務局のあゆみ	名誉会長	荒井 文男	51

第2節 競技本部の10年

競技本部の10年	競技本部長	渡辺 陽一	53
選手強化対策	競技本部アルペン部長	神山 弘	54
国民体育大会アルペン競技成績 (大回転)	競技本部理事	奥中 敏則	56

目次

過去の国体参加で得たもの				
	ハンターマウンテンスキークラブ	足助 彰信	59	
国体入賞の経験を胸に・・・				
	ハンターマウンテンスキークラブ	足助 未央	59	
2010年栃木県スラローム大会を振り返って	競技本部理事	川辺 友晴	60	
栃木県スキー連盟の歴史とともに歩む県スキー選手権大会				
～10年間の優勝者の栄冠を称えて～	競技本部理事	伊部 哲郎	62	
第26回栃木県ジュニアスキー大会、栃木県学童スキー大会及び				
栃木県スキー連盟創立80周年記念栃木県学童スキー選手権大会を振り返って	競技本部理事	田崎 真	64	
栃木県G S L大会10年を振り返って	競技本部理事	山口 昌利	68	
1999年～全日本スキーマスターズ上位入賞者の記録				
	競技副本部長	宇賀神 亨	70	
クロスカントリー	競技本部クロスカントリー部	渡辺 吉晴	71	
インターハイ10年	競技本部アルペン部	源田 道昭	72	
感謝		三井田雄太	77	
モーグル大会	競技本部理事	フリースタイル部長 阿部 達男	78	
中学校のスキー競技	中体連スキー専門部	深澤 貴久	79	
第3節 教育本部の10年				
教育本部の80年目	教育副本部長	阿久津順夫	81	
技術員の10年	S A Jブロック技術員	磯 正嗣	82	
スノーボードの10年	S A Jスノーボード技術員	田代美智男	83	
強化選手育成	教育本部 技術強化委員長	小林 英夫	85	
全日本技選に参加して	ハンターマウンテンスキークラブ	足助 未央	85	
新たなスタート	那須スキークラブ	針生 優希	86	
全日本スキー技術選手権大会を振り返って				
	宇都宮スキー協会	神山 健樹	87	
準指導員検定会をふりかえって	教育本部理事	検定部長 黒川 孝		
	教育本部理事	検定委員長 入江 正夫	88	
指導者研修会と公認検定員クリニックにおける10年				
	教育本部理事	研修委員長 野城 一宏	93	
参加人数から見る指導者研修会における10年の歩み				
	教育本部理事	研修副委員長 谷津三喜夫	94	
認定スキー指導員第1期認定者の声				
私のスキー人生と今後の活動	HOKUTO S.C	野中 茂	96	

これから望まれる指導者について	宇都宮スキー協会	石井 克典	96
近年の気象環境の変化について	大田原スキークラブ	角田 昌男	97
スキー人口拡大に貢献	那須塩原スノースポーツクラブ	小林 一恵	97
スキー技術選手権のあゆみ	教育本部理事 大会委員長	新井 和夫	98
全日本スキー技術選手権大会を振り返って	S A J 専門委員	小林 英夫	99
北関東スキー技術選手権 ～記憶に残る名シーン～			
	教育本部技術強化委員会チーフコーチ	齋藤 貴次	100
県技選をふり返って	教育本部技術強化副委員長	篠原 浩	101
マスターズ技術選	S A J 専門委員	泉 裕之	103
スペシャルトレーニング	教育本部理事 指導普及部長	櫻井 敦	105
プライズテストの追憶	教育本部理事 プライズテスト委員長	塩澤 弘司	106
公認スキーバジテストの10年	教育本部理事 庶務企画委員長	後藤 伸一	108
学校教職員スノースポーツ講習会			
	学校体育スノースポーツ委員長	佐藤 史彦	110
スノーボード技術選手権大会のあゆみ			
	教育副本部長 スノーボード委員会担当理事	斉藤 伸幸	112
変わりゆくスキー場とパトロール	S A J パトロール技術員	新井 和夫	115
安全対策部10年を振り返って	教育本部理事 安全対策部長	新井 和夫	
	教育本部 安全対策委員長	高橋 康範	116
スキースクールの10年			
	教育副本部長 スキースクール委員会担当理事	斉藤 伸幸	118
日光湯元スキー学校の10年	日光湯元スキー学校	岡村 昭夫	119
栃木県スキー連盟80周年を迎えるにあたって			
	エーデルワイススキースクール校長	山口 昌利	120
マウントジーンズスキースクールの10年			
	マウントジーンズスキースクール校長	渡辺 陽一	
	マウントジーンズスキースクール副主任	志田 博	122
スタートライン	ハンターマウンテンスノーアカデミー	大塚 昌代	122
小中学生育成委員会10年			
	教育本部理事 小中学生育成委員会担当理事	星 伸也	
	教育本部理事 チルドレン副委員長	南須原武男	
	小中学生育成委員長	岡野 守	123
小さなXCスキー競技会	教育本部理事 広報委員長	南須原武男	126

目次

第4章 県連の組織と役員

第1節 80周年によせて

スキーを始めた頃と現在	副会長	琴寄 忠男	128
これからどうする	副会長	手塚 義朗	128
“夢” 見果てぬ夢～夢をかたちに!	副会長	後藤 昌弘	129
スキー よき時代の回想	副会長	高野 孝夫	129
大会写真屋になり	副会長	高根沢春彦	130
創立80周年に想うこと	副理事長	出口 澄	131
躍進する県連に期待を	監事	柴 英雄	131
創立80周年を迎え新たな時代に向けて	監事	長谷川好勇	132

第2節 組織と役員

2010年度栃木県スキー連盟組織機構図	総務本部理事	小野崎俊行	133
県連役員10年の記録	総務本部員	藤倉 真一	134

資料

栃木県スキー連盟創立80周年記念事業実行委員会名簿	137
栃木県スキー連盟創立80周年記念事業の記録	
(1)スバルカップ第79回栃木県スキー選手権大会 (アルペン)	
栃木県学童スキー選手権大会 (アルペン)	138
(2)第79回栃木県スキー選手権大会 (クロスカントリー)	
栃木県学童スキー選手権大会 (クロスカントリー)	141
(3)第47回栃木県スキー技術選手権大会	142
(4)第8回オープンマスターズスキー技術選手権大会	144
(5)第7回スノーボード技術選手権大会	149

編集後記

創立80周年記念実行委員会記念誌部会 151

序章

創立80周年を迎えて



創立80周年を迎えて

栃木県スキー連盟 会長 綱川 千夫

栃木県スキー連盟創立80周年を迎えられましたことに、県連所属団体の皆様と共に喜び申し上げます。

創設80年（1930～2010年）にわたり県連運営に携わって参りました歴代の役員の方々の多くの皆様、スノースポーツにおける深い造詣によるご理解と弛まぬ御努力によって、組織の今日の普及発展がなされたものと、心から感謝を申し上げます。

1911年（明治44年）、オーストリアのレルヒ少佐が新潟県高田（現在上越市）においてスキー術を伝えました。その20年後、玉川学園の招聘により映画「スキーの驚異」のハンネス・シュナイダーによるアールベルグスキー術講習会（1930）が、日本各地で開催され、大変なブームを巻き起こしました。そのさなか、栃木県スキー連盟が同時期、昭和5年（1930）に創立されましたことに、先人の方々のスノースポーツに対する熱い心をうかがい知ることができます。創立に関して日光、那須を中心に、創立メンバーの皆さんが、多くの苦難を乗り越えて纏め上げて頂き、今日の創立80周年を向かえられましたことに深い感銘を受けております。

その記念すべき県連創立80周年を所属団体の仲間の方々と共に祝う為、主要大会を冠大会として各企業、スキー場関係者の皆様のご協力を得て大会を成功裡に開催させていただきました。関係者の皆さんに県連を代表して厚く御礼を申し上げます。

創立80周年の、締めくくりの記念式典事業には、多くの皆様のご臨席を頂きました。特に、上部団体の全日本スキー連盟、北関東ブロック群馬、埼玉、茨城各連盟、さらには、栃木県の各種スポーツ団体の上部団体であります栃木県体育協会様等、各代表者の皆様から御祝辞激励の御言葉を頂きましたことに対し熱く感謝を申し上げます。又併せて永年にわたり栃木県スキー連盟に対しご協力等を頂きました企業、個々の皆様に、スキー連盟より感謝を込めて賞状を贈呈させて頂きました。これからも、県連に対しまして更なる深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

この10年間バブル崩壊の経済不況を受けスノースポーツ愛好者の減少と共に、登録会員、有資格取得者等が減少しております。しかしながら、その流れを県連として傍観している訳には参りません。感動、活力、勇気、安全等スノースポーツの自然と戯れる楽しさをどう伝え、底辺拡大を図れるか、創立80周年を一つの契機として、更なる、スノースポーツの普及発展、競技力の向上の方策について構築するよう県連役員を筆頭に働きかけをしてまいりたいと思います。また、所属会員の皆様と共に、多くの先人が築いて来た輝かしい歴史を次の世代に引き継げるよう、改革を推進しステップアップしてまいりたいと考えております。

このことは、これまでのスキー連盟の果たして来た役割と業績は、スノースポーツの普及発展、青少年の健全育成と言う社会教育の一翼を担い、県民総スポーの実現に大いに貢献していただけるものと考えております。この様なことを考え併せながら栃木県スキー連盟がよりよき方向に向かうよう羅針盤の調整をしながら躍進してまいりたいと考えております。



『創立80周年記念誌』発刊によせて

財団法人栃木県体育協会 会長 福田 富一

このたび、栃木県スキー連盟が創立80周年を迎えるに当たり、「創立80周年記念誌」を発刊されますことは、誠に意義深いものがあり、心からお祝い申し上げます。

貴連盟は、昭和5年5月の設立以来、80年という永きにわたって本県スキー競技の選手の育成と競技力の向上はもとより、スキーの普及と技術向上に尽力され、本県スポーツの振興において着実な成果を挙げてられました。

特に、近年国民体育大会においてジャイアントスラローム競技で入賞者を出すなど、有望な選手及び指導者を数多く輩出しており、これらの功績は誠に大なるものがあります。

スポーツは、健康の保持・増進や体力の向上を図ることはもとより、明るく豊かな生活を送るうえで極めて重要な役割を果たすものであり、栃木県体育協会といたしましても、皆様の御協力のもと、「県民ひとり1スポーツ」をスローガンとする県民総スポーツ推進のための諸事情を展開してスポーツに親しむことの出来る環境づくりに努めているところであります。

こうした中、貴連盟におかれましては、多様化するスキーへ対応するため事務局体制を強化するなど組織基盤の充実に積極的に取り組んでられました。さらに、各種競技会や県技術選手権大会を開催するなど、スキーを通して親睦を図り、技を競い、栃木県民の心身の健全な発展に貢献していることは誠に喜ばしい限りであり、今後本県スキー界の一層の発展と競技力の向上につながるものと期待を寄せるものです。

本誌は、貴連盟のこれまでの歴史を改めて振り返り、再認識するための貴重な資料であると同時に、栃木県の未来におけるスキー振興の礎として、極めて重要な役割を担うものと期待しております。

結びに、これまで貴連盟の充実発展に貢献された歴代関係者に心から敬意を表しますとともに、この80周年を契機に更に大きく発展されますことを御祈念申し上げ、発刊によせる言葉といたします。



祝 辞

財団法人全日本スキー連盟 会長代行 岡 山 紘一郎
栃木県スキー連盟が創設80周年を迎えられましたことを心からお
祝い申し上げます。また、これを記念した「シュプール」が発刊さ
れますことを重ねてお祝い申し上げます。

貴連盟は昭和5年に創設されて以来、多くの競技大会を開催されるなど、日本のスキー
界に多大の貢献と実績を挙げられましたことを当連盟といたしまして敬意を表するところ
であります。

また一方で創設以来80年の長きにわたり、幾多の困難を乗り越えてスキー普及発展のた
め努力され、多くのスキーヤーの育成が図られたことは、ひとえに貴連盟の努力の賜と深
く感謝いたします。

近年は、地球温暖化、スノースポーツやレジャーの多様化等スキーを取り巻く環境はめ
まぐるしく変化し、スキー界への影響も少なくありません。今後も全日本スキー連盟との
連携を深め、スノースポーツの普及振興を通じて健全な社会の育成や国民の健康及び体力
の増進、地球温暖化防止活動等スノースポーツの発展に引き続き寄与されることを願っ
ております。

結びに、創設80周年というこの記念すべき年を一つの節目として、今後更なる発展と飛
躍を遂げられますことを祈念致しますと共に、関係各位のご健勝と今後益々のご活躍を祈
念して、お祝いの言葉といたします。

(平成22年9月吉日)



県連と共に半世紀

栃木県スキー連盟 名誉会長 荒井 文 男

栃木県スキー連盟創立80周年、誠におめでとうございます。また、このたび80周年を記念して、これまでの輝かしい足跡を集大成された記念誌を発刊されますことは、大変意義深いものがあり、心からお喜び申し上げます。

顧みますと、私が最初に県連に携わったのは、県職員在職中の昭和33年準指資格取得後で、その頃は県連事務局が県庁観光課内にあり、課長が鈴木恒元県連理事長の関係もありましたので要請され、間もなく同課勤務となり事務局も担当することになりました。

翌34年には理事に就任しましたが、当時は理事長以下11人の執行部体制で各種行事も全役員が担当していました。この頃県内のスキー場は、日光湯元、那須湯本、塩原新湯にあり、特に日光湯元は国有地のためスキー場整備については、県観光課の直轄工事として整備していました。当時の県選手権大会は、国体予選を兼ね上記会場を輪番制で開催し大会運営も各スキー場の地元クラブが主体となり、鈴木理事長以下観光課職員も競技役員を担当しました。また県から冬季演習目的に自衛隊派遣を要請し、特に通信隊の支援により円滑な競技運営ができたことは今では考えられない懐かしい思い出となっています。

私の理事就任当時の会長は、佐々木耕郎日光市長から間もなく堤武雄県副知事に変わった頃で、佐々木会長時代には1972冬季オリンピック会場として日光市が立候補したので県連担当の私もSAJ関係役員とともに会場コース調査に加わり、大きな惨事にはならなかったがヘリコプター事故もあって当時の新聞を賑わせ大変危険な思いもしました。県としても活発な誘致運動を続行しましたが、残念ながら札幌市が会場に決定されました。

日光市での冬季オリンピックは夢となってしまいました。その後私も県内観光地開発の冬季施設整備の一環としてスキー場開発にも関係し、特に計画から7年がかりで林野庁の認可をとりオープンした現在のMtジーンズスキーリゾート那須は、第三セクター方式の運営による県内では最初の近代化されたスキー場でした。その後同方式によりハンターマウンテン塩原がオープンし、以来県連としても各種行事の有効な活用が図られました。

私はその後も県教委体育課勤務となり、一部公務としてもスキー関係の環境であったことは恵まれていました。過去の回想は書ききれませんが、県職員の立場でスキーの知識と技術が仕事にも活かされ県連にも貢献できたことは、偏に前述の鈴木理事長との出会いとご理解ご指導の賜物であり、今でも忘れることのできない感謝の気持ちでいっぱいです。

私も先人、先輩の偉業を継承し、半世紀にわたり県連運営に専念し努めてまいりましたが、いま振り返ると感無量の面持ちです。創立80周年を契機として、さらなる県連の発展と皆様方の一層のご活躍をご祈念申し上げ記念誌発刊によせる言葉といたします。



県連の現況

栃木県スキー連盟 理事長 石塚 光 男

栃木県スキー連盟が昭和5年創設されて以来ここに80周年を迎えることは、長きにわたって県連運営に携ってこられた役員各位のたゆまぬ尽力の賜と深く感謝申し上げます。

競技力の向上やスノースポーツの普及と振興に情熱を傾けた先輩各位の並々ならぬご努力によって、今日の県連が築かれたものと思われまふ。改めて先輩各位に深甚なる感謝の意を捧げるところでございます。

現在の県連は、所属団体25団体、全日本登録会員1,961名であり、年々登録会員の減少に歯止めがかからず、10年前より700名程少なくなっています。指導者の人数も準指導員受検者の減少と高齢化、資格の返上等で現在1,006名と、50名程少なくなりました。

経済の低迷が続きスキー人口が減少し、経営が難しくなり閉鎖するスキー場もあり、スノースポーツ全体の危機を感じています。又、スポーツの多様化、少子化などスキー界にとって芳しくない時代になったのかと危惧しています。

日本のスキー発祥は、明治44年オーストリアのレルヒ少佐が新潟県高田市で青年将校10名にスキーを指導したことが始まりとされています。その後100年の間に用具の進歩と技術の進化が繰り返えされて来ました。その変化の極めて大きなものがカービングスキーの出現です。ターンが容易にでき易く、上達も早く、トップスキーヤーの感覚を味わうことが出来ます。このカービングスキーの特性を生かす指導法が更に発展することによって、スキーヤーの増につながるのではないかと、期待しております。専門部の活動方針や選手強化の改革を断行し、スノースポーツの普及と指導力の向上に取り組んで行きたいと思ひます。選手強化については、県連としてコーチングスタッフの充実を図り、特にこれからの選手、学童、ジュニアの育成に力を入れて行きます。

県連の主要な大会である、栃木スバル自動車(株)に協賛を頂いている栃木県スキー選手権大会をはじめ、教育本部担当のスキー技術選手権大会、スノーボードの技術選等、各大会は順調に開催されていますが、これを維持し、更に参加者が増えるよう各専門部と共に努力致します。

県連には常設の規約等審議委員会があります。県連運営の中で、現状と合わない、あるいは改訂したい部分等、規約規定の見直しを図り実態に合うよう委員会に諮問し、改訂を実施して行きたいと思ひます。

創立80周年を迎えて、先輩諸氏の業績を回顧しながら、県連と所属団体相互の信頼と有好を図り、栃木県スキー連盟が一層の発展を遂げるよう、皆様と一緒に頑張て行きたいと念願しております。

第1章

創立80周年記念式典祝賀会

栃木県スキー連盟創立80周年記念式典

式典次第

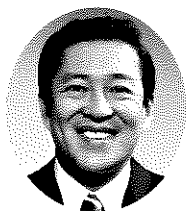
1. 開式のことば
2. 主催者挨拶
3. 表彰
 - (1) 功労者表彰
 - (2) 感謝状贈呈
4. 来賓祝辞
 - (1) 財団法人全日本スキー連盟会長
 - (2) 財団法人栃木県体育協会会長
 - (3) 全日本スキー連盟北関東ブロック代表者
5. 来賓紹介
6. 受賞者代表謝辞
7. 閉式のことば

祝賀次第

1. 開会のことば
2. 主催者挨拶
3. 来賓祝辞
4. 開宴
 - 乾杯
5. シーハイル
6. 閉会のことば

第1節 式典祝賀会

式典来賓祝辞



栃木県スキー連盟創立80周年に寄せて

埼玉県スキー連盟 会長 坂本 祐之輔

栃木県スキー連盟創立80周年誠におめでとうございます。

多くのスキー関係者が一堂に会し、盛大に式典並びに祝賀会が開催されましたことを心からお祝い申し上げます。また式典の中で、スキー連盟発展のためにご活躍・ご尽力された皆様に感謝状・表彰状の贈呈が行われました。受賞された皆様に敬意を表するとともに今後の活躍をご期待いたします。

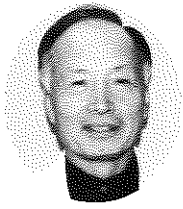
また私は現在、(財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会の会長に就任させていただいておりますが、綱川会長には当協会の副会長としてスキースポーツの普及振興さらには指導員の方々の情報交換等暖かいご指導ご支援を頂いておりますことに感謝申し上げます。

80年の長きにわたり着実な発展を遂げてこられたのも、ひとえに綱川会長をはじめ歴代会長、役員、会員の皆様のたゆまぬご努力のたまものと敬意を表する次第であります。

今日本のスキー環境を取り巻く状況は、地球温暖化・経済の悪化・少子化と非常に厳しいものがありますが、今こそ、地域に根ざした活動を着実にを行い、子供たちの健全育成をはじめスノースポーツの振興に力を注いでいかなければならないと考えます。富士山のよように裾野が広ければ広いほど、その頂きは高いものとなります。

今後ともこの80周年を契機として、栃木県の皆様が綱川会長を中心としてさらに一致団結、限りない飛躍を遂げられますようご祈念申し上げます。結びに栃木県スキー連盟の限りない発展とそれぞれの協会、クラブの発展をご祈念しお祝いのメッセージとさせていただきます。

第2節 受賞者の記録



80周年記念式典受賞者の記録

総務本部長 実行委員会庶務部会長 江連 隆 夫

◆表彰受賞功労者芳名簿

日光スキークラブ

後藤 昌弘 須藤 秀 福田 貞二 小林 英夫 高松 正二
 福田 光男 齋藤 貴次 仲田 盛一 福田 泰夫

那須スキークラブ

渡辺 陽一 小山田正文

宇都宮スキー協会

荒井 文男 綱川 千夫 佐藤 六夫 中山 厚 小俣 節夫
 小野 義治 長谷川好勇 田中 和男 増淵繁那夫 江連 隆夫
 宇賀神 亨 高野 昌之 高橋 秀夫 岩淵 辰男 芳野 哲也
 富山 英幸 分田 久貴 川俣 聖寿 加納 学 野中 克利

鶏頂山スキークラブ

丸山 博

栃木スキークラブ

琴寄 忠男 柴 英雄 石塚 光男 出口 澄 大島 正悟

足利スキー協会

笠原 弘行 奥中 敏則

小山市スキー協会

高松 守一 墨谷 貴夫 荒川 升吾

佐野スキー協会

毛塚 克己

今市スキー協会

福田 羨充 高野 孝夫 斉藤 伸幸 網 清夫 八木沢充博
 高野 正基

氏家スキークラブ

小堀 泉

芳賀スキー協会

根本 圭造

第1章 創立80周年記念式典祝賀会

おおひらスキー協会

川辺 友晴

黒磯スキー協会

高根沢春彦 黒川 孝 古磯 克浩 上吉原 進 高根沢和彦

児山 将之

上河内スキークラブ

手塚 義朗 阿久津順夫

大田原スキークラブ

阿部 達男 山口 信夫

那須塩原スノースポーツクラブ

千本木武則

HOKUTO S. C

磯 正嗣

◆故人表彰芳名簿

(故) 奈良 英司 (奈良クニエ) (故) 小林 資夫 (小林 雅彦)

◆表彰受賞競技関係者芳名簿

那須スキークラブ

足助 浩之 針生 優希

宇都宮スキー協会

佐藤 六夫 鶴見 宜典 森合 七良 柳 正男 伊藤 信夫

福澤 洋治 小林 光雄 大橋 一雄 石谷 友一 涌井 正之

高松 清 西村 哲志 新井 申 野中のぞみ 石田憲二郎

神山 健樹 渋井 充代

足利スキー協会

谷川 聡郎

小山スキー協会

岩渕 一馬 福馬 誠隆

佐野スキー協会

篠崎 倅汰

今市スキー協会

君島つぎみ 君島 雅弘 竹末 智宏

矢板スキー協会

森元 繁幸

おおひらスキー協会

川口 悟

ハンターマウンテンスキークラブ

新井 和夫 足助 彰信 足助 未央 大塚 昌代

◆感謝状受賞者芳名簿

POWER 'S

おおひらスキー協会

株式会社ツカダ

マウントジーンズ・スキーリゾート那須

一望閣

井上産業株式会社

会津高原 高畑スキー場

坪野谷石油株式会社

大黒屋スポーツ店

学校法人 氏家幼稚園

株式会社みんみん

尾瀬開発株式会社

有限会社 岡繁商店

常盤総合保険

日光アストリアホテル

奥日光湯元温泉旅館協同組合

有限会社 エスパ

有限会社 サンアイスポーツ

有限会社 長島自動車

東武興業株式会社

栃木スバル自動車株式会社

株式会社 奈良スポーツ

矢板スキー協会

足利スキー協会

鬼怒川・川治温泉観光協会

鹿沼スキー協会

オオツ株式会社

エーデルワイス・スキースクール

スキーバフメンバーズ

奥日光パークロッジ深山

ミスターハイコック

上河内スキークラブ

会津高原 だいくらスキー場

佐藤ボディ工業所

大丸温泉旅館

太陽スポーツ

宇都宮スキー協会

宇都宮徽章製作所

山のレストハウス

市塙工業所

弁天温泉旅館

日光湯元ロッヂ

明治乳業株式会社

有限会社 カミヤマスポーツ

有限会社 出口保険事務所

有限会社 村上運動具店

柏屋

株式会社 アベスポーツ

株式会社 松井ピ・テ・オ印刷

芳賀スキー協会

阿久津医院

鬼怒高原開発株式会社

(株)ハンターマウンテン塩原

有限会社 桜井鉄工所

受賞者の声



栃木県スキー連盟80周年に寄せて

宇都宮スキー協会 小野 義治

栃木県スキー連盟創立80周年おめでとうございます。

縁があって、学生の体験学習の一環であるスキー教室を指導する機会がありました。今は、レンタルでもカービングスキーなので、初めての体験者でも直ぐにボーゲンで滑ることが出来るようになります。用具の進展に合わせて技術の進歩は目を見張る思いです。

S A J 最初のスキーテキスト（昭和34年発刊）には「横滑りは実用価値が非常に大きい技術であり、急峻な山地において利用範囲が広められてゆくものである。」と記されており、当時の基礎スキーの目的は、現在の競技スキーへのアプローチでなく、滑降をより安全にそして快適に滑る技術の取得にあったようで、スキー技術に対する価値判断の違いを垣間見ることができます。

我々は、スキーが大好きでした。ただガムシャラにスキーをしていただけで、技術はその結果ついてきただけでした。

その後、用具・技術の進展に伴いゲレンデのスキーヤーは老若男女を問わず華麗に楽しんでいます。今若い人達のあいだでは、スキーはボードに押され気味ですが、この楽しいウインタースポーツがまた隆盛することを祈念いたします。S A T 万歳 シーハイル



苦楽の10年

佐野スキー協会 長 島 隆

創立80周年を迎えるに当たり、心より御祝い申し上げます。私も県連の理事職を離れて10年になります。病気の為に退任を余儀なくされましたが、その後体調も回復し、スキーもそこそこ滑れる様になりました。

さてその前後から大変多忙な10年間が始まりました。私の子供を初めとして、中学生、高校生を引率し、各地のB級公認大会に参加させるため、飛び廻りました。その子供達も全中大会・インターハイ・国体と参加し、子供達も充実した毎年であったと思います。そんな子供達とかかわっての10年間、競技本部長の出口様初め、役員コーチの方々には大変御世話になりまして本当に有りがとう御座居ました。子供達も先輩に追付け追越せと、切磋琢磨し百分の一秒の世界でしのぎを削り努力しておりました。そんな子供達とこの10年間を共に出来たのも病に打ち勝ち子供達からパワーをもらい、現在の自分が有る様な気が

しています。

近年、競技人口が減少し又、経済状況が悪い昨今ですが、諸先輩が築いた数々の歴史を引継いで、発展されます様願っております。又県連の組織も若者がそれぞれの立場で活躍出来るステージ作りが必要と思われまます。これから先の10年が正念場と思われまますので益々の発展を期待し思い出の1ページと致します。



栃木県スキーマスターズの歩み

栃木県スキーマスターズ 会長 鶴見 宜典

栃木県スキー連盟80周年記念式典にご招待頂き有難うございました。

80年の歳月の間には、スキーの黎明期・戦前の良き時代・戦中戦後の混乱期・その後のスキープーム等々懐かしい思い出と幾多の困難を乗り越えて来られた事と、当年81歳の私のスキー人生と照らしあわせ感慨深い物を感じさせられました。先人並びに連盟関係ご一同様のご尽力に敬意を表します。

今回ご依頼の内容として、“この10年の思い出”とありましたが、表題に掲げました栃木県スキーマスターズは平成10年11月17日設立、平成11年（1999年）シーズンより活動昨シーズン設立10年を迎えたところです。連盟80年の歴史から見ますとまだまだ雛子の状態ではありますが、最高齢82歳の佐藤六夫さんをはじめ50名の会員元気いっぱいポールバーンに飛び込んで行きます。もちろん全員ワンピースにヘルメットです。皆さん目標は、全日本マスターズスキー選手権大会です。近年30才以上5才刻み最高は85才以上までと各クラスわが身と同年代の方々との戦いで夫々のクラスでしのぎを削り合う事に、情熱を燃やして居ります。

全日本マスターズ大会は歴史は古く何回か名称が変わりましたが、1977年オールドパワースキー大会（大鰐）以来2010年マスターズスキー選手権大会まで34回開催されて居ります。

栃木県の選手としては、第5回（1981年）オールドパワー大会（妙高）に故早川卯太郎さんが最初ではないかと思ひます（記録なし）、その翌年早川さんに誘われ私のマスターズ行脚がはじまりました。

以来参加者も中山 厚・後藤昌弘(XC)・井上博康・渡辺令一・渡邊 太・伊藤信夫・神山祐一・印南洋一・柳 正男・森合七郎・大島一夫・故君島 元・藤田武人・角田晴夫・伊藤知子・鶴見久子と人数が増え、参加者皆様の総意により、平成10年（1998年）栃木県スキーマスターズが設立されました。初代会長佐藤六夫（県連顧問）二代会長伊藤信夫（餃子みんな社長）を迎え、大会参加選手も佐藤六夫・伊藤信夫をはじめ、土屋晴夫

第1章 創立80周年記念式典祝賀会

(XC)・福澤洋治・大関研二・君島時吉・小山吉信・鎌田 洋・中根美男・分田久貴・小林光雄・山口秀夫等の皆様が参加しています。私の優勝2回(2001・2005年)をはじめ、上位入賞者(佐藤六夫・後藤昌弘・大島一夫・藤田武人・小山田孝夫・小林光雄)も輩出するに至りました。マスターズスキー大会は年々各県連主催の大会が長野・新潟・東北等各地で開催され、参加者も全日本では600名を数えるに至って居ります。栃木県選手も各大会での活躍により、全国的に栃木の知名度をたかめて居ります。

最後になりましたが、栃木県スキー連盟の益々の発展を祈念いたすと共に栃木県スキーマスターズの活躍を誓います。



栃木県スキーマスターズ創立10周年記念式典(2009年11月17日)

(文中人名の敬称省略)



スキーとの出会い

ハンターマウンテンスキークラブ 大塚 昌代

栃木県スキー連盟が創立80周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

スキーが上手に滑れる友達を見て「わたしも滑れるようになりたい」そう思ったのがスキーを始めたきっかけでした。それから、小・中・高、大学に進み社会人になってもスキーを続けてきました。大学を卒業し栃木へ戻り県立高校で6年保健体育の講師をしていました、…。3年前の冬「うちの会社にきてみない？」と声をかけていただいたのが入社のかげでした。あれから、24年。今、わたしはスキーを仕事にしています。24年間毎年滑っていたハンターマウンテンの営業担当として。小さい頃からスキー中心の生活でしたが、大人になった今でもスキー中心の生活になるなんて、…。スキーとの出会いに感謝し、1人でも多くの人々に、スキーの楽しさを伝えられるよう今後も努めていきたいと思ひます。

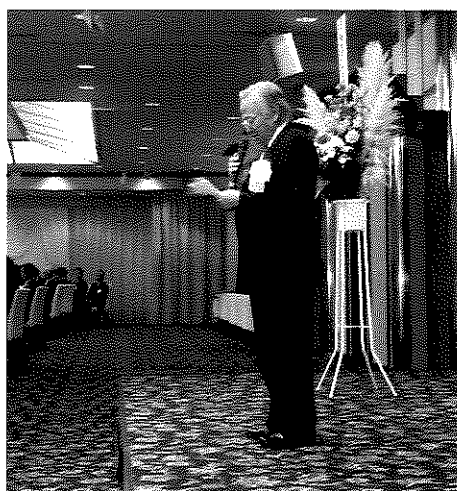
創立80周年記念祝賀会スケッチ

2. 主催者あいさつ

1. 開会のことば



高野孝夫副会長



綱川千夫会長

3. 来賓祝辞



茨城県スキー連盟会長 鈴木寿男様



群馬県スキー連盟副会長 林辰男様

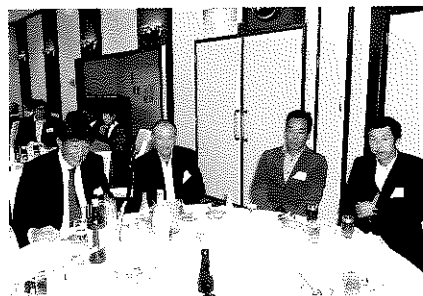
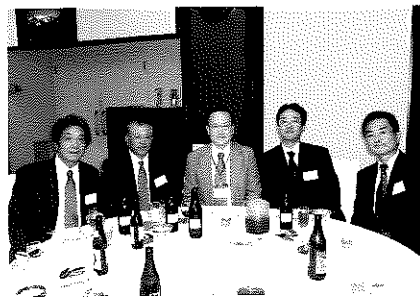
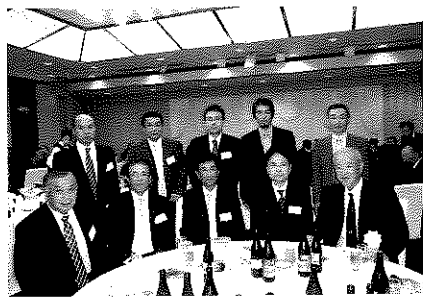
4. 開宴



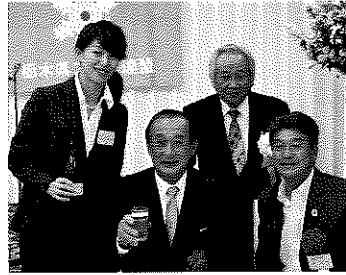
荒井文男名誉会長



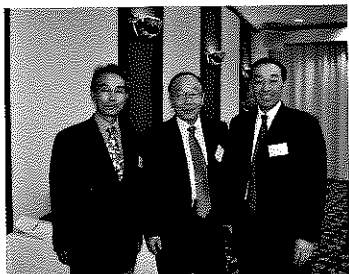
第1章 創立80周年記念式典祝賀会



祝賀会スケッチ



第1章 創立80周年記念式典祝賀会



5. シーハイル



柴 英雄副会長

6. 閉会のことば



高根沢春彦副会長